

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 河内 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。細かく見ても、全般的に全国平均を上回っている。けれども、条件に合わせて自分の考えをまとめたり、内容をまとめたりする「記述式」の問題に課題がある。
	よくできた問題	話し合いの記録の書き表し方を説明したものについて、読み取る問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	内容を読んで、条件に合うものを資料の言葉を使って、決まった字数でまとめる問題の正答率が低かった。
算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。特に「変化と関係」の領域の領域の平均正答率が、全国平均より大きく上回っている。
	よくできた問題	数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	基本图形に分割できる图形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかをみる問題に課題がある。
理科	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。細かく見ても、全般的に全国平均を上回っている。けれども、理由を説明したり、新たな問題を見出したりする「記述式」の問題に課題がある。
	よくできた問題	「生命」を柱とする領域に関する問題に対する正答率が高かった。
	努力が必要な問題	結果を基に理由を表現する問題や、差異点や共通点を基に、新たな課題を見いだす問題に課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">「学校に行くのは楽しいか」「先生はあなたの良いところを認めてくれているか」「自分には良いところがあると思うか」という問い合わせに対し、肯定的な回答が100%であった。学校や担任に対する信頼関係や安心感がうかがえる。「人が困っているときは、進んで助けるか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」に対しての肯定的な回答は100%だった。規範意識の定着や他者を思いやる心が育っている。学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）に対し、児童によって時間がさまざまであった。家庭での学習には個人差が見られる。学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）に対し、全体的に使用時間が短かった。ICTを活用した学習にはまだまだ至っていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○自分が考えたことや疑問に思ったことをノートにまとめ、他者と情報交換する時間を意図的に増やし、自分の考えを文章化する習慣をつけていく。
○パワーアップタイムの中で、読み聞かせやコグトレ、ドリルアプリの活用を位置付け、基本の学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ドリルアプリを用いた家庭学習を進めていくなど、タブレットの活用を常態化していく。
○子ども新聞をきっかけに新聞に興味をもたせ、新聞に触れる機会を増やしていく。